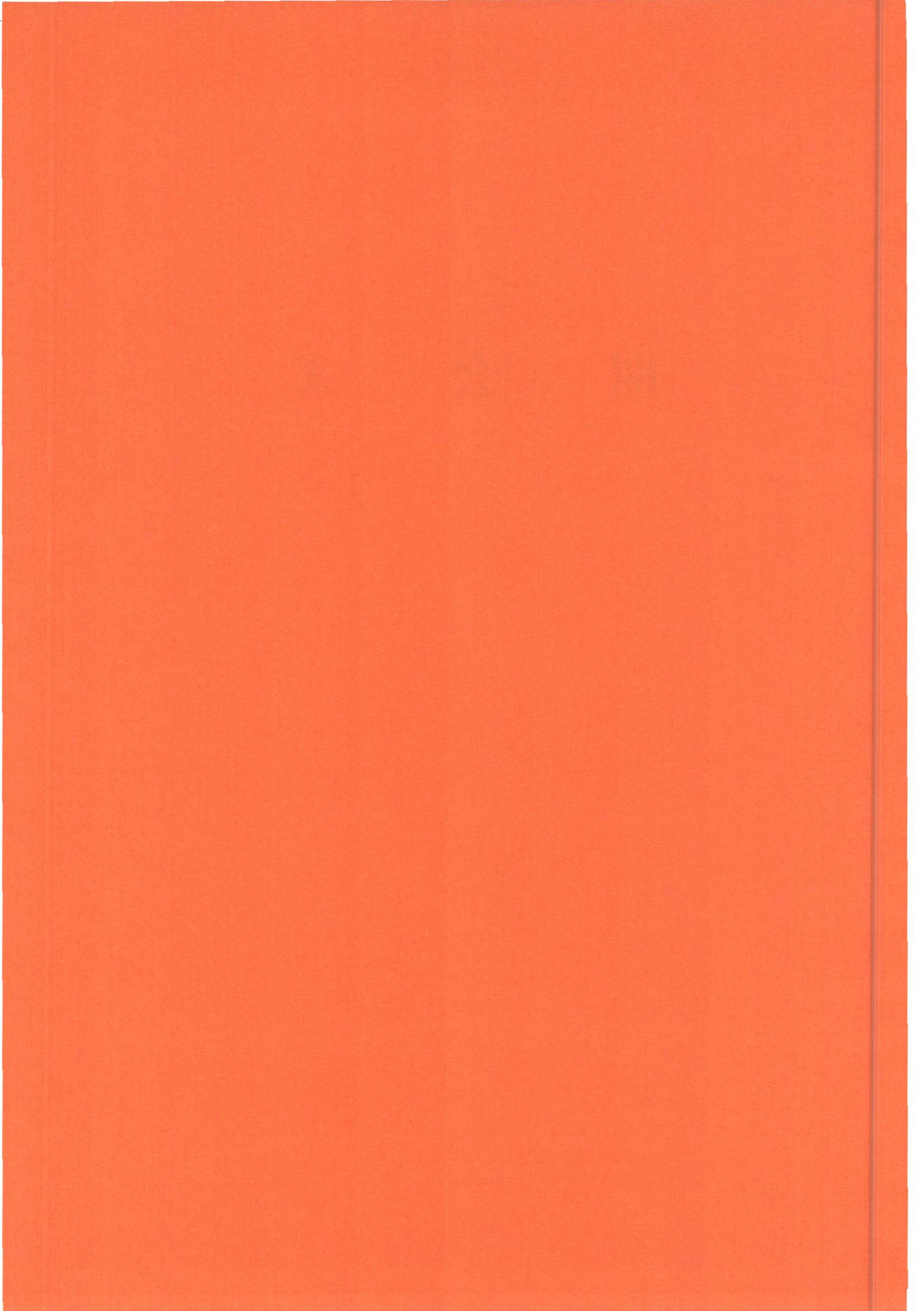


開 会 式



ごあいさつ

主催者 全国原子力発電所立地市町村議会議長会

会長 柏崎市議会議長 戸田 東

皆さん、ようこそおいでくださいました。

一言ごあいさつを申し上げます。

本日ここに、全国原子力発電所立地議会サミットが開催されるに当たりまして、主催者を代表して、一言ごあいさつを申し上げます。

全国原子力発電所立地市町村議会議長会が設立されまして、3年目を迎えております。

この議長会は、原子力に関連する、各々の自治体でそれぞれ抱えている問題や課題について、議員同士がお互いに連携をとりながら、調査・研究し、また、公平な議論、情報交換を行う中で、地域住民の安全の確保と福祉の充実、地域振興を図っていこうという趣旨のもとに設立されました。以来、活発に活動を行っているところであります。とりわけ、異なった立場の議会人が、公平な議論を行う中から問題解決に当たるという点に最大の目的を見出しているものであります。

本日のサミットに、300人を超える全国各地の自治体の議会議員、また、各方面で原子力にかかわっておられる皆様、大消費地と言われる東京都内で御活躍されている皆様方から多数御出席をいただき、このように盛大に開催することができますことを、心より感謝を申し上げる次第でございます。

また、本日は、御来賓として、渋谷東京都議会議長様から御多忙の中を御出席賜りました。厚くお礼を申し上げます。

今、世界は深刻な地球環境問題に直面しております。一方、アジア諸国を初めとする発展途上国は、増大するエネルギー需要を使いやすい化石燃料に求めているのが現状であります。

こうした中で、我が国は、太陽光、風力、廃棄物発電といった環境負荷の少ない新エネルギーの開発を模索しているところではありますが、比較的安定した供給が期待でき、燃料の輸送や貯蔵が容易であるウラン資源を燃料とした原子力発電を開発、利用していくことが極めて重要で意義があると言われているところでもあります。

しかし、原子力発電所を取り巻く環境は、私が申し上げるまでもなく、非常に厳しいものがあります。廃棄物の処理、核燃料サイクルの帰結、たび重なるトラブルなど、順調に進んでいるとは言いがたい状況にあります。

このような状況下にありまして、去る9月30日、東海村において、我が国ではかつて経験したことがない事故、核燃料加工会社による臨界事故が発生し、多くの被曝者を出す事態となりました。このことによって、原子力発電所の立地地域住民はもとより、広く国民に強い不信感、不安感をもたらしたことは、つい先日のことです。強いて言うならば、日本という国の信用までも失墜させたわけでありまして。

この実態につきましても、緊急ではありますが、この開会式の後で東海村の川崎議長さんから御報告をいただくことといたしております。現地の生の声をお聞きいただきたいと、このように思っております。

一方、国においては、今回の事故を踏まえて、現在、開会中の第146臨時国会において、原子力災害対策特別措置法案や原子炉等規制法の改正案を提出することとして聞き及んでいるところでありますが、まさに遅きに失したと言わざるを得ないところであります。

これに加えて、原子力発電所立地地域には、使用済み核燃料問題、プルサーマル問題が大きな課題となっております。議会も、行政も、常にそれぞれの立場で真剣に考え、悩んでいるところであります。

地域住民の代表であります我々議会人は、多くの地域住民の付託を得て選出されているわけですから、その住民の安全の確保と生活環境の充実は、まさに使命であると思っております。特に、国によって、その安全が保障されないならば、今後、原子力を支える地域、国民など、雲散霧消してしまうと言いきることができると考えるわけでありまして。

今回のサミットは、前回のサミットとは少し趣を変えて、参加者の皆様同士で、活発な議論を交わしていただくための分科会と、その分科会報告に対する意見交換を主体に計画をしたところであります。それぞれの分科会、そして全体会において、当面の諸問題、諸課題を十分に議論していただくことを願っている次第であります。そして、国の方々からは、この議論に真剣に耳を傾け、今後の施策展開に必ずや生かしていただきたいと思うところでございます。

最後になりますが、今回のサミットが、原子力発電の現状と今後のあり方について、いま一度原点に立ち戻って議論が交わされ、日本におけるエネルギー議論が真に国民的なものとなることを御期待を申し上げ、主催者としてのあいさつといたします。

どうもありがとうございました。

来賓祝辞

東京都議会議長 渋谷守生

ただいま御紹介をいただきました東京都議会議長の渋谷守生でございます。

第2回全国原子力発電所立地議会サミットが開催されるに当たり、東京都議会を代表いたしまして、一言ごあいさつを申し上げます。

このサミットの主催者である全国原子力発電所立地市町村議会議長会は、平成9年4月に設立されて以来、議員同士の原子力発電についての貴重な情報交換の場として、また、調査・研究を進める連携の場として大きな役割を果たしてこられました。日ごろから熱心な取り組みを臨んでおる皆様方に対し、この場をおかりいたしまして心から敬意を表する次第でございます。

さて、資源の乏しい我が国において、住民の豊かで快適な暮らしを支えるとともに、経済を活性化させていくためには、エネルギーの安定供給の確保が不可欠でございます。その他のエネルギー源として、環境負荷の面などから、原子力発電が期待されているところでございます。

この原子力の開発利用に当たっては、安全で環境の保全が大前提になることは申すまでもございません。後ほど詳しい報告がなされると伺っておりますが、残念なことに、去る9月の30日に、茨城県東海村のウラン燃料加工施設において臨界事故が発生し、住民に大きな不安が広がりました。この事故から、我々は安全性が何よりも優先されるものであること、そして原子力に携わる者1人1人が、そのために最善の努力をする必要を、改めて痛感をいたしました。

本日のこの後の分科会において、安全性の確保の問題を始め、原子力のさまざまなテーマについて討論が予定されておりますが、このような折に、全国各地の皆さんが、それぞれの立場から議論と情報交換を行うことは、まことに意義深いものでございます。

どうか立地市町村議会の皆さんにおかれましては、皆さんのさらなる英知を結集され、今後とも住民の安全の確保と福祉の向上、そして地域の振興に、より一層の御活躍をなされるようお祈りをいたします。

結びに当たりまして、この2日間、本サミットが大きな成果を上げられますよう、あわせて全国原子力発電所立地市町村議会議長会の益々の御発展を心から祈念いたしまして、私のごあいさつといたします。

